

調査研究課題構想・概要

調査研究課題名「生命倫理の社会的リスクマネジメント研究」
代表者名「野口和彦」
中核機関名「(株)三菱総合研究所」

調査研究の目標・概要

1. 目的

医学・生物学はヒトを含む生命、情報を直接・間接に扱う科学技術であることから、研究者や産業人の生命倫理の確立及び市民の理解が不可欠と広く認識されている。しかしながら必ずしも行政、公的研究機関・民間企業等の研究者集団、市民の間で、適切かつ効率的に生命倫理の問題に対処する意識や能力、社会システムが構築されているとは言えないのが現状である。本研究では、医学・生物学に関係する行政、研究者集団、市民の各主体を対象として生命倫理問題の実態把握、解決のための基礎的な調査研究を実施するとともに関係者全体での議論を通じて、生命倫理問題に対処する社会的リスクマネジメントのあり方を提案することを目的とする。

2. 内容

生命倫理問題の主体である行政、公的研究機関・民間企業等の研究者集団、市民を対象として、医学・生物学、社会学、政策研究、法学、リスクマネジメント等の専門家の連携により調査研究を実施し、今後の科学技術政策提言をまとめる。具体的には、(1)医学・生物学の専門家集団内部における生命倫理に関する現実的な問題点、意識レベル、解決のための課題等の実態把握及び自律的な意識、能力育成の研究、(2)社会的意思決定に向けたステークホルダーと市民の相互関係についての社会学的研究、(3)法的、行政的視点からの科学技術政策における問題点や課題の調査研究を実施し、これらの研究成果をとりまとめ、関係者全体及び一般からの参加による議論を通じた意見収集を行った上で、(4)生命倫理問題に対処する社会的リスクマネジメントモデル構築のための検討を行う。

3. 俯瞰的・融合的視点

生命倫理の問題は、行政にとっては科学技術及び産業政策推進と市民の安全・安心の確保を両立させる上での課題、専門家集団にとっては人体由来のモノと情報を利用するにも拘らず資料提供者から乖離した存在として扱われがちな性質を持つことなど現実的な対処の問題、市民にとっては自らの生命、生活、人権といった根源的な部分に深く係るが故に適切な判断を下すことが難しい問題であり、これら主体における問題は互いに密接に関連していることから、その扱いについては広範な専門的視点とそれらを有機的に捉える視点を必要とする。本研究では、医学・生物学にとどまらず社会学、政策研究、法学、リスクマネジメント等、学際的な視点からの考察を行い、それらをシステム的アプローチで融合することで政策提言を導くこととする。

4. 一般からの意見の反映方法

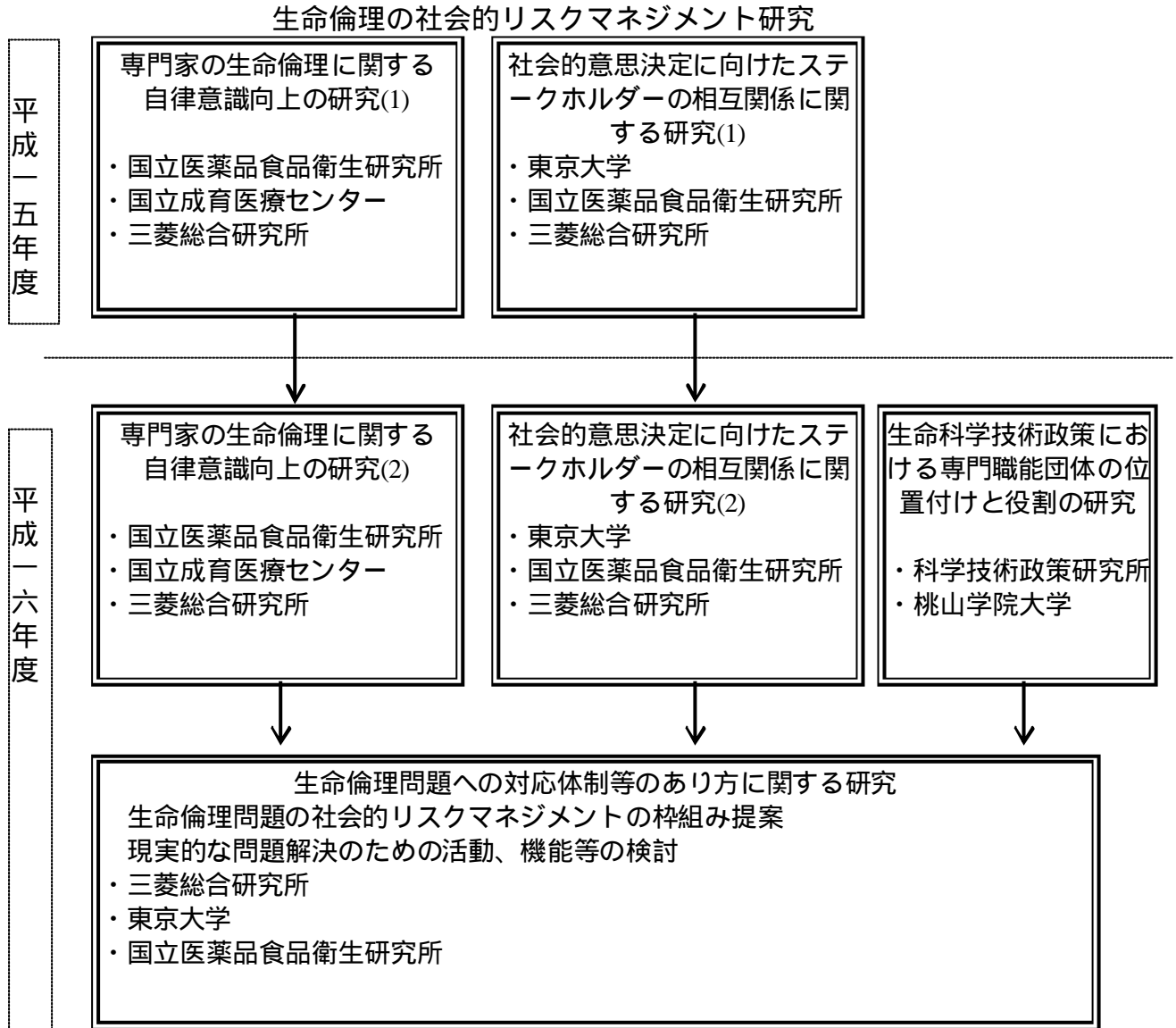
専門家集団内での議論を経て集約された問題点と、その議論の過程について、一般市民及びマスコミ関係者らと集中的な討論の時間を持つことによって、専門家集団の意識と対策について評価を得る。また、調査研究をとりまとめ、政策提言を導く際にシンポジウム等による一般からの意見収集の機会を設けることとする。

調査研究により期待される提言

期待される提言は、生命倫理が問題となる科学技術に係る社会全体に構築すべき社会システムのあるべき姿である。さらに、社会システムを構成する既存の主体（行政、研究者集団、市民）及び新たに創造すべき主体（第三者的な機構等）において求められる実効的な活動や機能、それらの関連性を社会的リスクマネジメントの視点から明らかにしていくことである。

調査研究体制

調査研究課題名 「生命倫理の社会的リスクマネジメント研究」
 代表者名 「野口和彦」
 中核機関名 「(株)三菱総合研究所」



期待される提言

- (1) 生命倫理が問題となる科学技術に係る社会全体に構築すべき社会システムのあるべき姿の提案
- (2) 社会システムを構成する既存の主体（行政、研究者集団、市民）及び新たに創造すべき主体（第三者機構等）において求められる実効的な活動や機能、それらの関連性